

知識は 旅をする



千葉県立東部図書館だより
2017年3月

第58号

■トピックス

▼資料紹介コーナー

「春を探そう」

展示期間

展示中～4月20日

▼ガラス展示コーナー

「高橋順子ー旭いいおか文芸賞『海へ』
関連展示ー」

展示期間

展示中～3月7日

▼図書館ナビのご案内

「図書館ナビ」では毎月第2日曜に「検索演習」、第4土曜に「データベース講座」を開催しています。

(4月のみ第4土曜も「検索演習」を行います)

また、演習・講座修了後には「書庫見学会」を開催いたします。

県立図書館の職員が皆様の疑問に答えながら、分かりやすく解説します。
パソコンの使い方がわからない方でも、お気軽にご参加ください。

(平成29年4月～6月の予定)

検索演習 4月9日、4月22日、5月14日、6月11日
データベース講座 5月27日、6月24日

▼利用者アンケートを実施しました

平成28年10月27日～11月9日の2週間、来館された皆様に利用者アンケートをお願いしました。

お忙しい中、アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

⇒結果を掲載しました。

ホームページURL <http://www.library.pref.chiba.lg.jp/>

携帯電話サイトURL <http://www.library.pref.chiba.lg.jp/m/>

携帯電話機のQRコードリーダーでアクセスできます→



「宮脇俊三自選紀行集」

宮脇 俊三／著

JTB 2001 [29109/170]

国鉄全線2万キロを乗りつぶした伝説の人、宮脇俊三。毎月新しい時刻表が出ると、その晩は何時間も読み耽るほどの愛読者。昭和50年の正月に全線完乗を思い立ち、全国津々浦々の乗り残し区間をつぶしてしてめぐる顛末を記録した『時刻表2万キロ』や、北海道から鹿児島まで日本を縦断する一筆書きの旅に挑んだ『最長片道切符の旅』等、代表作から隠れた名作まで、選りすぐりの紀行集です。ユーモア溢れる少し懐かしい昭和の旅に垣間見える鉄道愛。鉄道ファンならずとも旅に出かけたくなる一冊です。



「ロスト・トレイン」

中村 弦／著

新潮社

2009 [9136/ナケ34]

廃墟探索の趣味から廃線跡に興味を持った主人公は鉄道マニアの男と偶然、出会い意気投合するが、男は「日本のどこかにまだ誰も知らないまぼろしの廃線跡があり、その始発駅から終着駅までをたどれば、ある奇跡が起こる。」という言葉を残して、こつ然と姿を消してしまう。

消えてしまった男の知り合いの鉄道マニア女性と一緒に行方を捜すうち、終戦間近にも謎の行方不明事件が起こったことがわかり……。

最後まで目が離せない謎と恋と郷愁の物語をお楽しみください。



「チャレンジする地方鉄道」

堀内 重人／著

交通新聞社 2013 [68621/136]

地方鉄道は、地域のトレードマークにもなっています。しかし、通学に使っていたけれど、卒業したらサッパリ、という話が多いようです。自動車の普及と人口減少によって惜しまれつつも廃止される鉄道が多い中、画期的な方法により奮闘する鉄道会社もあります。この本では、ぬれ煎餅で有名な銚子電気鉄道をはじめ14の鉄道会社が紹介されています。小湊鐵道の懐石料理列車のお手本となった岐阜県の明知鉄道は、食に関するイベント列車の草分け的存在。最も歴史ある「寒天列車」は昭和62年の運行だそうです。



図書館ぶらり散歩 (42)

鉄道の本

「進む航空と鉄道のコラボ」

杉浦 一機／著

交通新聞社

2015 [6811/23]

正月のNHK番組で、成田山新勝寺の歴史や地形を踏まえた観光スポットが紹介されました。その中で、現在の成田線の前身である「成田鉄道(国鉄からJRへ)」を作ったのは、成田山新勝寺と言うこともできると紹介されました(最大の株主であったことより)。

そして、その成田における鉄道はさらに発展し、現在、JRの「成田エクスプレス」と京成電鉄の「スカイライナー」は空港まで直結し、風雨にさらされることもなく空港内での乗り換えが可能となっています。しかも日暮里から最短で36分という早さです。

さらに、作者はJRと京成電鉄の路線の改良を提案しています。鉄道と航空のコラボレーションにより私たちの生活はまだまだ便利になりそうです。

※ [] 内は資料の請求記号です。

歴史講座 国指定名勝『屏風ヶ浦』

— 銚子半島をめぐる文人文豪たちの遊歴と観光 — H28. 11/5(土)



11月5日(土)、当館3F研修室にて歴史講座を開催しました。講師には、千葉県立中央博物館の主席研究員で歴史学研究科長の内田龍哉(うちだ たつや)氏をお招きし、上記の演題で、昨年3月に国の名勝および天然記念物に指定された屏風ヶ浦と地域の歴史を中心にお話いただきました。70名の方が聴講されました。

講演は、名勝とはどのようなものか、なぜ「屏風ヶ浦」が名勝に指定されたかという説明から、この地域の歴史の説明へと入っていきました。江戸時代から明治・大正にかけての「銚子磯廻り」という概念、関連して発達した水運や鉄道などの交通網、更に銚子という地域そのものの発達など、パワーポイント(画像)を用いて膨大な調査資料をテンポよくご説明いただきました。文豪・芸術家たちの来銚、数々の紀行詩文や絵画の中に描かれてきた屏風ヶ浦の姿、文人たちと銚子との関わり等々、多岐にわたる内容であったという間の2時間でした。「地域の歴史をより深く知ることができ、更に興味がわいた」「わくわくした」「銚子に文人がこんなに来て屏風ヶ浦を語っているとは知らなかった」「大変勉強になった。今後の観光ガイドに役立てたい」「膨大な文献をどのように調査されているのか驚嘆の思い」「語り口が面白く、ためになった。これを糸口に紹介された本を読んでみたい」等、多くの感想が寄せられました。「ぜひ次回も」「内容が濃く時間が足りない、2回続きの講座に」というご要望もでるほど大変好評でした。ご参加ありがとうございました。

はつらっライフ講座(2) 年金の基礎知識

H28. 11/12(土)

11月12日(土)、当館3F研修室にて、はつらっライフ講座を開催しました。はつらっライフ講座はシニア世代の暮らしに関するさまざまな課題を解決するための情報を提供する講座です。今回は、講師に金融広報アドバイザーの添田ミツ江(そえだ みつえ)氏をお迎えし、「年金の基礎知識」という内容でお話を伺いました。18名の方が参加されました。

講座では年金制度の仕組みや、老後の生活設計などについて、添田先生から分かりやすく説明していただき、受講者の方々からも好評でした。質疑応答では、参加者それぞれの悩みや疑問に対し、丁寧かつ確かなアドバイスをしていただき、とても参考になりました。講座後のアンケートでは、「年金のことがある程度わかった。」「日常のお金の管理の一例が参考になった。」などの声が寄せられました。

なお東部図書館1階入口横では、はつらっライフ応援コーナー「はつらっライフなび」を設置し、歳を重ねてもまだまだ元気な方に役立つ情報を提供しています。年金や生活設計など暮らしに役立つ資料の展示もごございますので、こちらもぜひご利用下さい。



「松尾」地名の由来は

～山武市歴史民俗資料館 松尾藩資料館～

「松尾藩」と聞いて、へえー、江戸時代に松尾に藩があったのか、と思う人も多いでしょう。ところが、「松尾藩」は、江戸時代に置かれていた藩ではないのです。「松尾藩」があったの



浅黄糸威当世具足二十四間筋兜

は、仮藩庁時代の「柴山藩」であった時を含めて明治2年（1869年）から明治4年（1871年）まで。わずかな期間でしたが、15歳で藩知事となった太田資美は、藩校や病院の設置や、産業振興に力を入れました。

そもそも太田資美は、掛川藩（現在の静岡県）の藩主でした。それが明治維新で徳川家はその一帯を領地として与えられたため、太田家はこの地に移封されたのです。

松尾藩資料館は、この、太田家ゆかりの品々や、築城関係の品々、さらに、発掘された古墳の出土品、当時の藩土に由来するものなどを常設展示しています。平成20年度から関連調査を開始し、平成27年11月に、松尾 I T 保健福祉センター内に開館しました。

展示品の中でも、松尾藩士の子孫の方々から寄贈された大型の長持や、築城に使われた測量器は必見。また、展示ケースはすべて地元の山武杉で作られており、甲冑・陣羽織・土器などはその中に収められています。

担当の方のお話しでは、「松尾城は日本で最

後に築かれた城であり、設計図通りに建てられたという点でも他に類を見ません。城の作りは敵に知られてはならない極秘事項なので、普通は図面通りではなかったり、図を残さなかったりするのです。松尾城は四稜城で土塁もあり、城下の町並みも戦いに備えた形ではあったものの、実戦はないと考えられていたからこそ設計図に従って築かれた、と考えられます。歴史の隙間にそのような時代があったことを考えると興味を深いですね。」とのことでした。

そして、実は現在の地名「松尾」自体が、太田資美が明治3年（1870年）に、この一帯城下町を称したのが始まりなのです。故郷である掛川藩をしのいで、掛川城の別名「松尾城」にちな

んだものだといわれています。

遠くて近い
150年前に思いを馳せて、じっくり見たい資料館です。



市内に移築された松尾城御住居の表門

- ◆所在地 山武市松尾町五反田3012
- ◆電話番号 0479-80-7005
- ◆開館時間 午前9時半から午後5時
- ◆休館日 月曜日、祝日、年末年始等
(松尾図書館に準じる)



臨時築法四稜城之図

■ 県立図書館の資料は、市町立村図書館などを通じて利用することもできます。

お近くの図書館、あるいは公民館図書室等の読書施設にご相談ください。（一部ご利用いただけない施設もございます。各施設にご確認をお願いいたします。）

■ 県立図書館では、千葉県に関する資料を収集しています。

グループ・職場などで資料を発行されたときには、情報をお寄せください。

編集長の独り言

梅がほころび、桜の開花も気になる季節となりました。東部図書館では、ただいま「春を探そう」をテーマとして資料展示を行っております。また今号では、今年は鉄道関係の記念行事が多いことから、鉄道関係の本をご紹介します。併せてご利用いただき、春を満喫いただければと思います。

編集・発行：千葉県立東部図書館

〒289-2521 千葉県旭市ハの349

TEL 0479-62-7070

FAX 0479-62-7466

URL : <http://www.library.pref.chiba.lg.jp/>